

## ■ 快適で魅力のある風土を創る

### (1) 景観

#### 1.1 公共事業により景観を創る

良好な景観は、美しい自然や人々の営みが調和することで生まれます。

公共事業は、周囲の景観に配慮するとともに、地域住民の景観形成の取り組みに合わせて行うことが大切です。

##### ① 道路整備

道路は、人や物、文化や情報などを運ぶ社会基盤として、県内の隅々まで整備されています。その沿線には、山並み、街並み、田園などの多種多様な景観が展開されているため、それらと調和するよう景観に配慮した整備が必要です。



周囲の街並みに配慮し歩きたくなるような道路  
(富根都クラブの協力による町道整備)  
(富士河口湖町 宮森の道)

(写真：2.16)



地域の歴史を感じることの出来る落ち着いた遊歩道  
(市川三郷町 中央通り付近)

##### ② 電線類の地中化(無電柱化)

電線類の地中化は、良好な景観づくり、安全で快適な通行空間の確保、防災機能の向上等を目的として行われています。

地中化が行なわれることにより、景観への障害がなくなり、山並みがきれいに見えるなどの効果が現れます。



電線類地中化(前)(国道358号)  
(写真：2.17)



電線類地中化(後)(国道358号)

## 1.2 景観に配慮した街並み・家並みを創る

### ① 屋外広告物

屋外広告物は、山、川、道路、街並みなどと同じく、眺める人たちの共有物といえます。

周囲の景観と調和した屋外広告物とすることが、まち全体の魅力を高め、統一感を与えることとなります。



連続する瓦屋根と白壁づくりの建物に調和する広告物  
地区で協定を結び建物デザインを誘導した街並み  
(身延町 しょうにん通り) (写真：2.18)



建物や植栽、広告物が歴史や文化を醸し出し、魅力ある街道景観  
(北杜市 台ヶ原宿)

### ② 建築物

建築物の外観は、素材や色彩だけで決めるのではなく、その地域にふさわしい、風景と調和した設計とすることが重要です。

そのためには、自然豊かな地域においては、自然環境と調和させた草木などの「みどり」を用いたデザインとするとともに、歴史と文化を感じさせる地域では、伝統と調和した建築物としていくことが重要です。



富士山麓の自然環境との調和に配慮し、「みどり」をデザインに取り入れた工場  
(富士河口湖町 松山油脂富士河口湖工場)  
(写真：2.19)



収穫期のみ農産物を販売する特徴ある地域における、自然素材を活用した期間限定の店舗  
(鳴沢村 たまな)

(写真：2.20)

## (2) 環境

### 2.1 身近な生活環境を創る

#### ① 河川整備

河川は、治水、利水の役割を担うだけではなく、地域の風土と文化を形成する重要な要素でもあります。

潤いのある水辺空間や多様な生物の生息・生育環境としての機能を有していることから河川の生態系を保全することが必要です。



親水護岸の整備  
(北杜市 鳩川の釣り大会) (写真：2.21)



生態系に配慮した整備  
(道志村 道志川の魚道) (写真：2.22)

#### ②ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインは、少子高齢化や国際化、障害をもつ方々の社会参加が進む今日にあって、欠かすことのできない要素となっています。

一方で、わが国におけるユニバーサルデザインは、整備の開始後間もないことから、必ずしもデザインが洗練されているとは言えない状況です。スロープや点字ブロックの設置など多様な場面で、機能面と景観面の調和した設計が望まれます。



スロープ、点字ブロック、2段手すりを取り入れた広場の整備  
(甲府駅北口)



外国語表記、点字を使った案内看板  
(甲府駅北口)

### ③ 植樹・緑化活動

植物は、人々の心身に安らぎを与えます。また、緑のカーテンなどによる太陽光の遮光、断熱による節電効果など、近年、植物がもたらす多様な効果への期待が高まっています。



緑のカーテンによる緑化  
(南アルプス市 櫛形図書館) (写真：2.23)



街路樹、生け垣がある潤いのある街  
住民による剪定作業  
(上野原市 コモアしおつ) (写真：2.24)

### ④ エネルギー施設

全国トップクラスの日照時間、県土の78パーセントを占める森林、豊富な水など本県の豊かな自然環境を生かした太陽光発電や、水力発電などの再生可能エネルギーを利用することが求められています。

一方、これらの新しい施設建設が景観に与える影響が懸念されています。景観に対する影響や景観に配慮する方法、開発に適した土地の抽出、防災への対策などの検討が必要となります。



自然エネルギーを使った水力発電  
(都留市 元気くん1号) (写真：2.25)



自然エネルギーを使った太陽光発電  
環境に配慮した動物による除草  
(甲府市 米倉山メガソーラー)  
(写真：2.26)

### (3) 文化

#### 3.1 新たな住環境を創る

新たに開発された住宅地において、地域の合意形成によって「統一感のある街並み」をつくるのが、新たな景観文化を創造することにつながります。そこに住む地域の人々のアイデンティティを表現する美しい街並みは、生活にやすらぎを与え、地域に一体感が生まれます。



地区で協定を結び生け垣等の植栽を取り入れた街並み

(南アルプス市 あやめが丘)



地区で協定を結び塀を使わずに、植栽を取り入れた街並み

(甲斐市 双葉・響が丘) (写真：2.27)

### (4) 風土産業

#### 4.1 農業の基盤を創る

「農業従事者の高齢化」「農業後継者の不足」「農産物の価格低迷」などを要因として、耕作されない農地が発生しています。昔懐かしいふるさとの農村風景を蘇らせるためにも、新たな取り組みを行うことで、地域を活性化していくことが求められます。

美しい景観と清らかな環境で育った農産物のブランド化、6次産業化、観光農業・グリーンツーリズム・棚田オーナー制度・企業研修といった都会との交流、大規模化や経営の法人化、道の駅や輸出等による出荷先の多様化など、様々な主体・分野を横断した取り組みが必要です。



企業の協力による農地の再生  
ワイン用のブドウ畑として再生  
(北杜市 明野三沢農場) (写真: 2. 28)



NPO 法人による農地の再生  
多様な担い手により、荒れた農地の再生  
(北杜市 えがおつなげて) (写真: 2. 29)

## 4.2 地域の魅力を資源とした産業を創る

地域の人々が「当たり前」と感じる風景も、来訪者にとっては魅力的に映る場合があります。その点に着目し、その素材を生かし、さらに磨き上げることで、地域の新たな産業を創出することができます。

地域の魅力の発見には、第三者的な視点が重要であり、外部の有識者などの意見を参考にすることも有効です。



(写真上) 森林を活用し、宿泊施設、カフェやショップ、ミュージアムなどを創り、散策から食事、ショッピングまで幅広く楽しめる施設

(北杜市 萌木の村)

(写真下) かつてキリスト教の研修施設として創られた清泉寮は、現在では宿泊施設、レストラン、カフェなどの運営や環境教育を行っている。

南に富士山、東は奥秩父連山、西は南アルプス連峰、北に八ヶ岳を望むことの出来る牧場

(北杜市 清泉寮)

台風災害で壊滅的な被害を受けた西湖湖畔の根場地区をかつての茅葺き屋根の集落として再生  
飲食施設、手作り体験工房、地場製品の販売、工芸作品の展示などがあり、ゆっくりくつろげる施設

(富士河口湖町 西湖いやしの里根場)